

市長記者会見



本日の案件

1 市総合防災訓練【地震・津波編】の実施について

～東北初の電動小型モビリティを活用した避難訓練など～

2 災害時緊急一時避難施設の公募について

3 『温泉』と『フラ』を活かしたいわき湯本温泉のにぎわい再生！

～湯本駅周辺の市街地再生の現状と今後の進め方について～

令和 6 年 10 月 29 日

市長記者会見



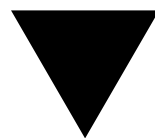
1

市総合防災訓練【地震・津波編】の実施について

～東北初の電動小型モビリティを活用した訓練など～

「逃げ遅れゼロ」「災害死ゼロ」を目指して
「災害対応のじぶんごと化」へ

自助 × 共助 × 公助



連携による **地域防災力の強化** を目指します

訓練実施概要

1 日時

令和6年11月16日 (土) 8時30分～11時30分

【予備日：11月17日 (日)】

2 災害想定

「三陸沖を震源とするマグニチュード 9.0 の地震」

3 参加予定数

約1,500人（うち市民約800人）

4 訓練実施のポイント

- (1) 関係機関と連携した津波避難訓練
- (2) 自主防災組織、登録防災士等と共に行う訓練

中止とする場合：市災害対策本部「第1 配備体制※」以上の事象が発生した場合

※震度5弱以上の地震の発生など災害対応が必要な場合

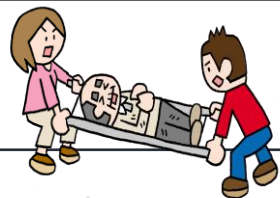
関係機関と連携した津波避難訓練実施イメージ図

沿岸部地震と大津波を想定して実施する



久之浜・大久地区

- ・民間事業者と連携したワークショップ（損保ジャパン）



四倉地区

- ・モビリティを活用した避難訓練（東北大、トヨタ）
- ・高専と市民が連携した津波避難訓練



平地区

- ・孤立集落（川前地区）への物資輸送訓練（陸上自衛隊、ヤマト運輸、佐川急便）
- ・炊き出し訓練（陸上自衛隊）
- ・給水車、トイレカー展示



小名浜地区

- ・公共交通事業者による避難訓練（新常磐交通）
- ・FCEV（燃料電池車）の支援訓練（エナジア・ミドリ安全）
- ・船舶からの大津波警報伝達（海上保安部）
- ・情報伝達訓練（小名浜港東港）



勿来地区

- ・津波避難ビル等への避難訓練（植田小）
- ・小学校と地域が連携した津波避難訓練（錦東小）



自主防災組織、登録防災士等と共に行う訓練

各地区本部の訓練

共助

【地区本部における訓練場所】

地区	会場	地区	会場
平	藤間中	小川	柴原公民館
小名浜	江名小	好間	好間第一小
勿来	植田小、錦東小	三和	三和ふれあい館 上三坂体育館 他
常磐	長倉小	田人	田人おふくろの宿
内郷	内郷支所	川前	川前活性化センター
四倉	四倉南団地集会所他	久之浜・大久	久之浜・大久 ふれあい館
遠野	入遠野公民館		

市内13地区で実施します。
当日参加も可能です。

【地区本部訓練内容】

避難所開設・運営訓練

避難所開設・運営方法の
確認を目的に実施

実施地区：各地区本部



写真：避難所開設訓練様子

ペット同行避難訓練

飼い主がペットとともに、躊躇せずに避難できるよう実施

実施地区：平、遠野地区



写真：ペット同行避難訓練様子

平地区（藤間中学校）【メイン会場】

孤立集落への支援物資輸送訓練など

公助

訓練内容

① 孤立集落への物資輸送訓練

（陸上自衛隊、ヤマト運輸、佐川急便と連携）

川前地区が孤立したと想定し、物資を平地区から川前地区に
陸上自衛隊のヘリコプターで輸送する訓練を実施

本市初

② 炊き出し訓練

陸上自衛隊による避難所の避難者への炊き出し（豚汁200食
を用意）を実施

③ 市災害支援訓練

訓練参加者に給水車及びトイレカーの展示や説明などを実施

④ ペット同行避難訓練

飼い主がペットとともに、躊躇せずに避難できるよう実施



写真：ヘリコプターによる物資輸送（イメージ）



写真：炊き出し支援訓練（イメージ）

小名浜地区（江名小学校）

公共交通や燃料電池車を活用した訓練 **公助**

訓練内容

01 公共交通事業者による避難訓練（新常磐交通(株)と連携）

津波浸水想定区域内を走行している路線バス（訓練では、回送バスを使用）が、大津波警報発令時に津波浸水想定区域外の避難所へ利用者等を避難させる訓練を実施

本市初



写真：新常磐交通(株)小型バス

02 FCEV（燃料電池車）の支援訓練（(株)エナジア・福島ミドリ安全(株)と連携）

避難所における停電を想定し、電気で稼働する防災資機材へのFCEV（燃料電池車）からの電源供給を実施



写真：FCEV（燃料電池）車

勿来地区（植田小学校、錦東小学校）

勿来地区における津波避難訓練



01 津波避難ビル等への避難訓練

津波避難ビル（市営住宅佐糠第一団地：令和6年8月29日指定）等、一時避難場所から避難所（植田小学校）への避難訓練

実施場所 植田小学校

訓練内容 (1) 津波避難訓練 (2) 避難所開設運営訓練



写真：市営住宅佐糠第一団地

02 小学校と地域が連携した津波避難訓練

児童が津波避難ビルである錦東小学校で、垂直避難訓練を実施、更に、付近の地区住民についても、学校へ避難する避難訓練を実施

実施場所 錦東小学校

訓練内容 (1) 防災講座（地区のリスクについてなど） (2) シェイクアウト訓練
(3) 校庭への避難訓練 (4) 垂直避難訓練（屋上に避難）
(5) 振り返り

※学校行事により実施時間は、13：00～15：00



写真：錦東小学校

四倉地区（四倉南団地集会所他）

先端技術を活用した避難訓練を実施

自助

訓練内容

01 モビリティを活用した避難訓練（東北大学災害科学国際研究所、トヨタと連携）

東北大学と市民が連携して公道で電動小型モビリティを活用し、津波避難をする訓練を実施

東北初



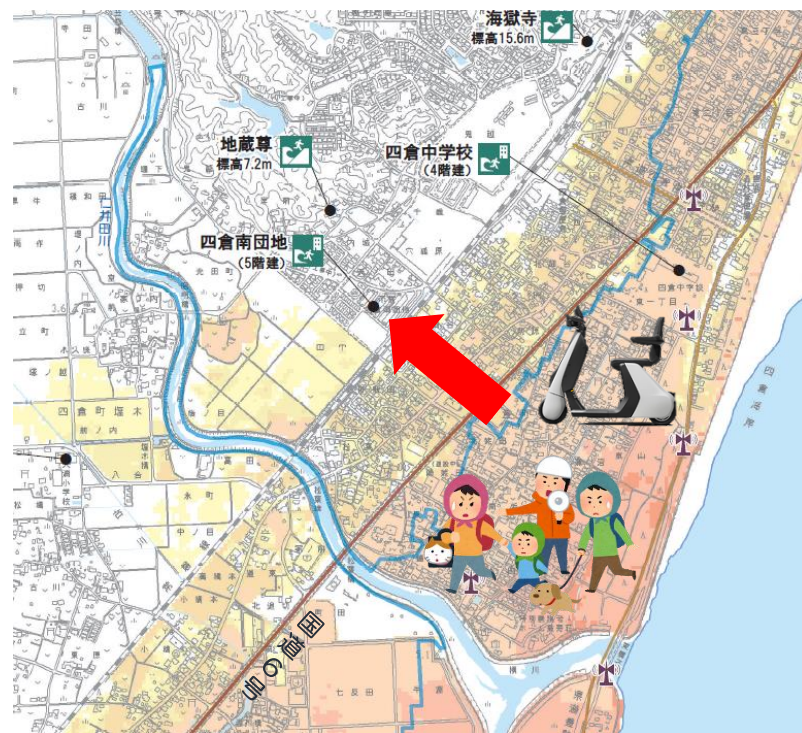
電動小型モビリティ（トヨタ車）

02 高専と市民が連携した津波避難訓練

大津波警報が発令された場合における津波避難訓練を高専と地域が連携して実施

実施内容については、国道や線路を横断する交通渋滞等の課題を分析して最適な避難行動を導き出し、今後行われる「第3回高専防災減災コンテスト」で発表予定

参加する高専：福島、沼津、石川、福井、奈良



訓練イメージ

久之浜・大久地区（久之浜・大久ふれあい館）

民間事業者（損保ジャパン）と連携したワークショップ 自助

訓練内容

01 避難訓練

大津波警報発令に伴いふれあい館の屋上（津波避難ビル）に避難する訓練を実施

02 ブース体験

ふれあい館 1 階に損保ジャパンのブースを設置し、体験及び訓練を実施

【設置するブースの内容】

- ・ 防災ドローン展示ブース
- ・ 毛布で担架トライアル ブース
- ・ 応急救護体験ブース



写真：応急救護訓練



写真：毛布担架訓練

その他（小名浜港）

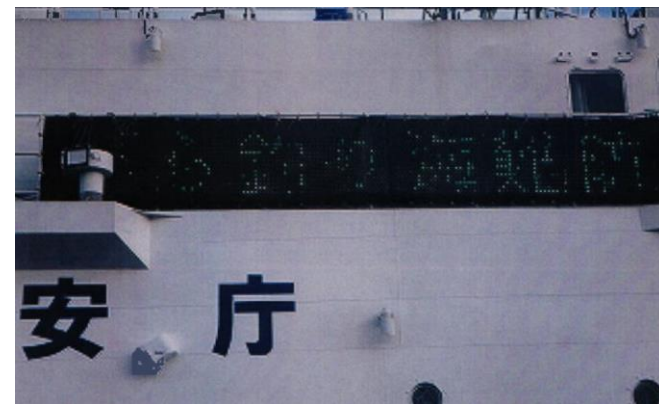
小名浜港における津波避難訓練



訓練内容

01 福島県海上保安部による津波避難訓練（港湾関係者への避難広報）

福島県海上保安部が、大津波警報発表時の巡視船による電光掲示板
避難広報及び巡視艇による拡声器避難広報を実施



写真：海上保安部巡視船 電光掲示板

02 津波避難訓練に係る情報伝達訓練

小名浜東港バルクターミナル合同会社による小名浜東港内で働く
従業員への大津波警報情報伝達訓練を実施



写真：東港「福島県提供」

逃げ遅れゼロ・災害死ゼロ

市民の**命**を守る取組みを
全力で進めていきます。



いわき市

市長記者会見



2 災害時緊急一時避難施設の公募について

避難所等に係るこれまでの取り組み

新型コロナウイルス感染症対策の集団感染防止(3密を防ぐ)ため、**開設避難所数の増加**、安全な親戚・知人宅への分散避難を推奨

大切な財産である自動車を使用した避難の推奨
(**好間工業団地、四倉中核工業団地**等に**自動車避難場所**を確保)

津波や河川洪水で逃げ遅れた場合の「命を守る砦」の確保
(沿岸部や平、内郷地区の**浸水想定区域内の学校校舎**を
緊急一時的な垂直避難場所として活用)

今後必要なこと

令和5年台風第13号災害に係る検証調査チームからの提言

⇒ **自宅に近い身近な垂直避難場所の確保**

日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に係る津波避難対策の強化
(津波の第一波到着までに安全な場所まで避難できない地域)

⇒ 浸水想定区域内の頑丈な建物を「**津波避難ビル**」として指定

自助、共助、公助の力を集結による「逃げ遅れゼロ」への挑戦

これまでの実績

1 令和3年1月に公募を開始(期限を設けず、現在も継続中)

避難施設	地区	事業者等	駐車可能台数 (避難可能人数)
自動車 避難場所	平	いわき市フラワーセンター ※	380台
	常磐	(株)ドーム	390台
	内郷	内郷市民運動場 ※	42台
	四倉	四倉中核工業団地内8事業者及び県所有地	約1,000台
	好間	好間工業団地内18事業者及び市所有地	約1,500台
垂直 避難場所	平	北都オーディオ	110人
		平第四小学校 ※	—
	内郷	内郷第二中学校、宮小学校 ※	—

「※」は市の施設。このほか、施設を活用した垂直避難場所の確保に向け、市教委及び各学校と協議中。

2 津波避難ビルの指定

⇒ 東日本大震災後、沿岸部の学校や支所等18か所を津波避難ビルとして指定。

1

津波避難ビル

（日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震の
津波避難困難地域への対応）

津波避難困難地域（第1波到着までに浸水想定区域外に出る時間的余裕がないと見込まれる地域）を中心に指定する。

要件：垂直避難が可能となる

4階建て以上の頑丈な建物



2

洪水時垂直避難場所

(河川洪水浸水想定区域内に
垂直避難場所を確保)

過去の水害で被災した平、内郷地区における取組み(平四小、宮小、内郷二中の校舎活用)を、他の河川流域に拡充する。

要件: ホテルやマンションの廊下や踊り場、
事業所の会議室などを想定



3

自動車避難場所

日常生活に必要な「自動車」とともに避難できる体制の確保

居住地に近い身近な高台等に、きめ細かく自動車避難場所を確保する。

要件: 立体駐車場や敷地内の空きスペースなどで、浸水想定区域内の場合は想定浸水深よりも高い位置に避難スペースを確保できること。



令和6年度の公募内容

1 募集期間

令和6年10月29日(火)～令和6年12月27日(金)

2 申込み方法

市ホームページ、X(旧Twitter)「フラッと防災」に掲載
電話または電子メールにて危機管理課まで申込み

3 申請後の流れ

- ・申し込み順に現地確認(建物の耐震性や災害リスク等)を実施。
- ・利用条件等について施設所有者と協議
- ・合意に至った場合には、市と所有者で協定を締結し、公表。

市長記者会見



3

『温泉』と『フラ』を活かしたいわき湯本温泉のにぎわい再生！

～湯本駅周辺の市街地再生の現状と今後の進め方について～



1 事業の進ちよく状況①

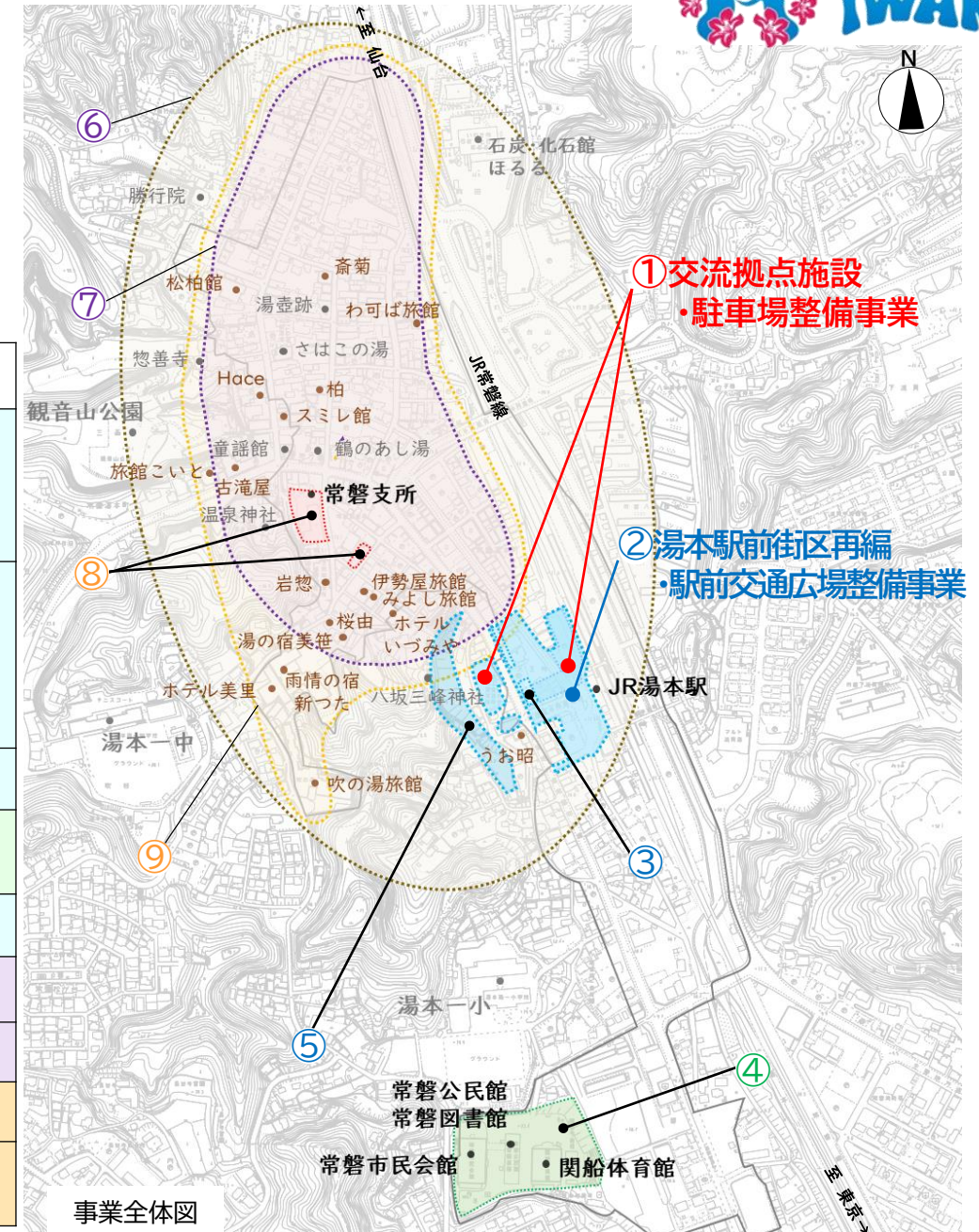


(1) 常磐地区の現状と課題

- ・本市の観光拠点である常磐地区は、震災以降、観光入込客数が減少
【観光入込客数（いわき湯本温泉：2010年 約59万人 → 2023年 約21万人）】
- ・湯本駅前は、空き地や駐車場などの低未利用地の増加に伴い、まちの活力・賑わいが低下

(2) 「常磐地区市街地再生整備基本計画(R4.10)」の進ちよく状況

取組みの名称	現在の進ちよく状況
①交流拠点施設 ・駐車場整備事業	<u>「(仮称)常磐地区交流拠点施設整備事業」</u> ・イメージパースを作成し公表 (R6. 7) ・今後、地域・企業等の意見をもとに整備方針を検討
②湯本駅前街区再編 ・駅前交通広場整備事業	<u>「湯本駅周辺土地区画整理事業」</u> ・県の事業認可を取得 (R6. 10) ・今後、土地の再配置や道路・駅前広場等の基盤整備を進める
③市営住宅天王崎団地跡地利活用事業	跡地における集会所・広場を運営し、賑わい・交流を創出
④公的不動産利活用事業	将来の土地の利活用に向けて、企業アンケートなど実現可能性の調査を実施
⑤湯本駅前緑地・御幸山公園整備事業	公園の現況を踏まえながら、事業化に向けた検討を実施中
⑥にぎわい再生事業	既存制度を活用しながら、商店街や企業の取り組みを支援
⑦観光地域づくり事業	地域の皆様による新しいお土産作りなどの企画立案を支援
⑧滞留拠点整備事業	将来の土地利用に向けて、実現可能性の検討を予定
⑨魅力ある街並み空間整備事業	道路空間のあり方を検討中。景観づくりのベースとなる「まちなみづくりサポートブック」を作成中



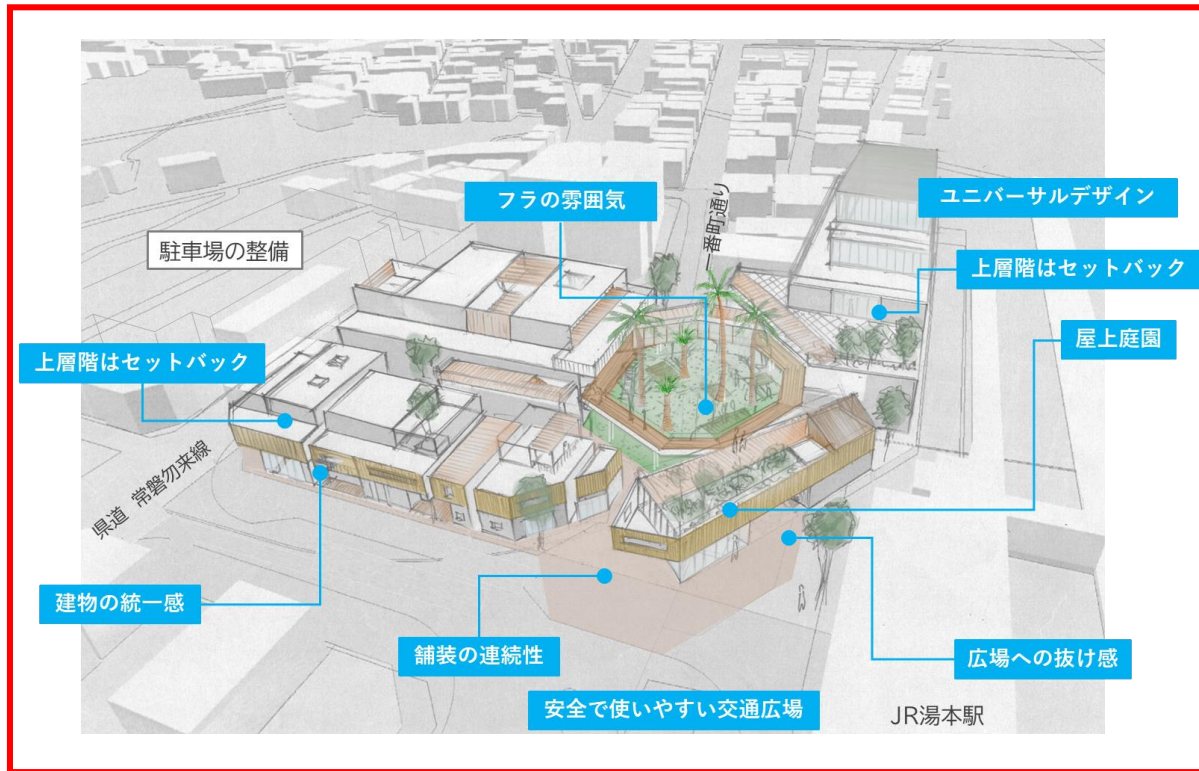
事業全体図

1 事業の進ちょく状況②

(3) 主な事業のイメージ



①交流拠点施設・駐車場整備事業



(仮称) 常磐地区交流拠点施設整備事業
イメージ

②湯本駅前街区再編・駅前交通広場整備事業



湯本駅周辺土地区画整理事業
イメージ

2 今後の進め方①



(1)今後のスケジュール（区画整理・交流拠点）

令和6年10月 時点

事業名	年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度
		～	4月 現在 ▼	3月 4月	3月					
湯本駅周辺 土地区画整理事業			地元説明・個別面談等							
			事業認可 (県)	土地区画整理審議会 ※換地先などを審議するため、権利者や学識経験者で組織します					換地 処分	清算
				仮換地指定 ※土地の再配置先が決まります						
				家屋・店舗等の移転						
				仮設店舗の設置						
				家屋・建物等の再建 (共同店舗を含む)						
				宅地整地・道路・駅前広場工事等						
(仮称) 常磐地区 交流拠点施設 整備事業		募集要項、要求水準書等の検討・作成				事業者 公募・選定	設計	工事	供用	
		地元説明・官民対話等					地元説明等			

完了(予定)

(2) その他

- 地元まちづくり団体の「じょうばん街工房21」や地元の各種団体（計25団体）から、事業の着実な推進に向けた要望書の提出がありました（10/22）。
- 土地区画整理事業の事業計画縦覧においても、わかりやすい説明を求める声が寄せられました。



今後も地区の皆様に丁寧な周知・説明を行いながら事業を進めていきます

<事業のお知らせ>

- ・広報いわき
- ・市公式ホームページ
- ・地区への回覧板
- ・お知らせ掲示板を設置
- ・パンフレット
- ・SNSなど



<意見を聴く>

- ・説明会
- ・意見交換会
- ・個別面談（権利者）
- ・アンケートなど



<交流拠点施設 市民説明会>

- ・日程：令和6年11月28日（木）、29日（金）
両日とも15:00～16:30、18:30～20:00
の2回ずつ
- ・場所：常磐公民館 1階 第2会議室

<地区の行事におけるPR>

※令和6年11月3日（日）に開催される
「第22回湯の街学園祭」において、
事業PRブースを設置し、アンケートを実施



常磐地区の市街地再生に向けて、事業を着実に推進していきます。
皆様のご理解とご協力をお願いします！